

期	配当 時数 例	題材	教材	題材で取り扱う 主な〔共通事項〕	取り扱う指導事項	題材の目標
1 学期	2	思いを込めて楽しく歌おう	「光の道」 「校歌」	強弱、テクスチャ	表現 歌唱	イ(ア)、ウ(ア) 【知】「光の道」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。【技】創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。
						ア 【思】「光の道」の強弱、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱表現を創意工夫する。
						【態】「光の道」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組む。
	3	曲の形式を捉えながら鑑賞しよう	「春」第1楽章	音色、旋律、 強弱、形式	鑑賞	イ(ア) (イ) 【知】「春」の曲想と音楽の構造やソネットとの関わり、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史について理解する。
						ア(ア) 【思】「春」の音色、旋律、強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、「春」のよさや美しさを味わって聴く。
						【態】「春」の曲想と音楽の構造やソネットとの関わり、独奏ヴァイオリンと弦楽合奏の音色や響きに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。
	5	曲の特徴を生かして歌おう	「サウンド・オブ・ミュージック」から 「DO-RE-MI」 「エーデルワイス」	リズム、速度、旋律、 テクスチャ	表現 歌唱	イ(ア)、ウ(イ) 【知】「DO-RE-MI」「エーデルワイス」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。【技】創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。
						ア 【思】「DO-RE-MI」「エーデルワイス」のリズム、速度、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱表現を創意工夫する。
						【態】「DO-RE-MI」「エーデルワイス」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり、声部の役割と全体の響きとの関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組む。
	2	曲の形式を生かして歌おう	「夏の思い出」	リズム、旋律、強弱、 形式	表現 歌唱	イ(ア)、ウ(ア) 【知】「夏の思い出」「赤とんぼ」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。【技】創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。
						ア 【思】「夏の思い出」「赤とんぼ」のリズム、旋律、強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱表現を創意工夫する。
						【態】「夏の思い出」「赤とんぼ」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組む。
2 学期	6	曲想の変化を生かして歌おう	合唱祭 「各クラス自由曲」	速度、旋律、強弱、 テクスチャ	表現 歌唱	イ(ア)、ウ(ア) (イ) 【知】「各クラスが選択した自由曲」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。【技】創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。
						ア 【思】「各クラスが選択した自由曲」の速度、旋律、強弱、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱表現を創意工夫する。
						【態】「各クラスが選択した自由曲」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり、声部の役割と全体の響きとの関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組む。
	2	曲想の変化を感じ取って鑑賞しよう	「魔王」	音色、旋律、 テクスチャ	鑑賞	イ(ア) 【知】「魔王」の曲想と音楽の構造との関わりを理解する。
						ア(ア) 【思】「魔王」の音色、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、「魔王」のよさや美しさを味わって聴く。
						【態】「魔王」の曲想と音楽の構造との関わりや独唱の表現の豊かさに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。
	2	わが国やアジア地域の、 多様で豊かな声による表現を 鑑賞しよう	「日本とアジアの声によるさまざま な表現」	音色、旋律、 テクスチャ	鑑賞	イ(ウ) 【知】日本とアジアの声によるさまざまな表現の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。
						ア(イ) (ウ) 【思】日本とアジアの声によるさまざまな表現の音色、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性や固有性について自分なりに考え、よさや美しさを味わって聴く。
						【態】日本とアジアの声によるさまざまな表現の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。
	2	箏曲の多様な表現を鑑賞しよう	箏曲「六段の調」	音色、速度、 旋律、形式	鑑賞	イ(ア) (イ) 【知】「六段の調」の曲想と音楽の構造との関わりや音楽の特徴とその背景となる文化や歴史について理解する。
						ア(ア) 【思】「六段の調」の音色、速度、旋律、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、「六段の調」のよさや美しさを味わって聴く。
						【態】「六段の調」の曲想と音楽の構造との関わりや箏曲の特徴とその背景となる我が国の文化や歴史に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。
5	音の重なり方を捉えて リズムアンサンブルをつくらう	「音の重なりを意識してリズムア ンサンブルをつくらう」	リズム、テクスチャ ア、構成	表現 創作	イ(ア)、ウ 【知】音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解する。【技】創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。	
					ア 【思】リズム、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、創作表現を創意工夫する。	

							【態】音の重なり方の特徴を生かしてリズムアンサンブルをつくることに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習に取り組む。
	4	パートの役割を生かして 合わせて歌おう	「明日を信じて」 「飛び立とう君の空へ」	旋律、強弱、 テクスチャ、構成	表現 歌唱	イ（ア）、ウ（イ） ア	【知】「明日を信じて」「飛び立とう君の空へ」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。【技】創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。 【思】「明日を信じて」「飛び立とう君の空へ」の旋律、強弱、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱表現を創意工夫する。 【態】「明日を信じて」「飛び立とう君の空へ」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり、声部の役割と全体の響きとの関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組む。
3 学 期	2	郷土のさまざまな民謡を 味わいながら鑑賞しよう	「郷土のさまざまな民謡」	音色、リズム、旋律	鑑賞	イ（イ）（ウ） ア（イ）（ウ）	【知】郷土のさまざまな民謡の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、音楽の特徴とその特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。 【思】郷土のさまざまな民謡の音色、リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性や固有性について自分なりに考え、よさや美しさを味わって聴く。 【態】郷土のさまざまな民謡の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、音楽の特徴とその特徴から生まれる音楽の多様性に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。
	5	和太鼓の基本的な奏法を身に付け よう	▶和太鼓 「八丈太鼓」 ・ゆうきち ・トンコ節	音色、リズム	表現 器楽	イ（イ）、ウ（ア） ア	【知】和太鼓の音色と奏法との関わりについて理解する。【技】創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な身体の使い方などの技能を身に付ける。 【思】音色、リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、器楽表現を創意工夫する。 【態】和太鼓の音色と奏法との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習に取り組む。
	4	パートの役割を生かして 合わせて歌おう	「明日へつなぐもの」 「君が代」	旋律、強弱、 テクスチャ、構成	表現 歌唱	イ（ア）、ウ（イ） ア	【知】「明日へつなぐもの」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。【技】創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。 【思】「明日へつなぐもの」の旋律、強弱、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱表現を創意工夫する。 【態】「明日へつなぐもの」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり、声部の役割と全体の響きとの関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組む。